

生き方指導をもとに、主体的に進路選択ができる生徒の育成  
～ゲストティーチャーによる講演会を通して～

- 1 主題設定の理由
- 2 仮説
- 3 研究の計画
- 4 研究の実践と考察
- 5 研究の成果と課題

第20分科会

高等教育・進路保障と労働教育

河合 進 (一宮・中部中)

## 研究の概要報告

### 1 県内の自主的研究活動のとりくみ状況

本年度報告された二件の研究では、いずれの学校とも中学校におけるキャリア教育のとりくみを進路指導の活動につなげて実践が進められていた。そこで、特に特徴的だった点を三点あげて当日の発表を振り返ってみたい。

まず一つはいろいろなおとなと生徒が出会えるよう工夫されていた点である。両校とも、年齢的により近いおとなや普段ふれることが少ない職業に就いているおとな、自分たちとのつながりを感じやすい卒業生など、多様な背景をもつおとなたちと生徒がふれあうことができるよう工夫されていた。

また二つめに、外部の方々の力を積極的に借りて連携したとりくみを推進していた点も有効なとりくみだといえる。教員だけでとりくむのではなく、外部の方の力を借りることで生徒に働くおとなの姿をより広く見せていくこともできていた。社会に開かれた教育課程が目標に掲げられているように、保護者や地域の方、コーディネートを担う企業・団体などと連携をして生徒たちに多くのおとなとふれあう機会をもつ工夫がされていたことは、持続性のある進路指導・キャリア教育のとりくみを進めていくうえで重要な視点だといえる。

最後に、生徒たちの変容を丁寧に見取ろうとしていた点も、今後進めていくうえで重要な観点である。生徒の振り返りをふまえながら、そこでの学びを日々の教科の授業で活用させるなど、教科との往還を意識しながら進路指導・キャリア教育を進め、そこでの学びを可視化して子どもたちが自らの成長を自覚できるように進めていくことが、今後さらに期待される。

### 2 第73次教育研究愛知県集會にむけた課題

上記のような研究発表に対し、当日参加者からは活発に質問が出され、議論が進められた。その中のいくつかについて、次年度の集會にむけた課題としてあげておきたい。

進路指導・キャリア教育を三年生になってから行うのではなく、入学時からの継続的・体系的な学びとして深めていくためには、日々の教育活動の中で持続的に活動することと、まとまった時間を使って行う行事などの時間を確保していくことの両輪が必要になる。進路指導を一時的な教育活動にせず、継続的に行っていくためにも、次年度以降それらが両輪として機能するよう意識して実践にとりくんでもらいたい。

また、中学校段階において、職業目標を明確に決めることだけをめざすのではなく、変化する社会の中で生きていくために子どもたちにつけさせたい力は何か、改めてかかわるおとなが見つめ直し、子どもたちがこれからの社会で挑戦を続けていけるよう、意欲や自信を高めていくことができる実践をめざして進路指導にとりくんでいただくことを期待したい。

そして、今後は小・中・高における実践をふまえ、連携を意識して協議していけたら、より系統的な実践研究が進められるだろう。

(高綱 睦美・坂倉 功一)

## 報告書のできるまで

第72次教育研究集会では、第70次教研まで積みあげられてきた成果をふまえ、各分会・各単組において、学校ぐるみの教育活動が続けられてきた。そして、その実践は各単組の集会で報告され、そこでの討論・助言をもとに、尾張ブロックから、合計2本のレポートが提出された。

本報告書は、「生き方指導」としての望ましい進路指導・キャリア教育を追究し、「自己の生き方を考える子どもの育成」をテーマに作成した。

助言者	高綱 睦美 (愛知教育大学)	坂倉 功一 (尾北・岩倉北小)
分科会教研推進委員	鈴木 雄一郎 (知教連・阿久比中)	柘植 隆昭 (名古屋・高杉中)
	高橋 涼介 (西尾・西尾中)	藤原 大 (西春・熊野中)
	山田 寛菜 (海部・大治中)	三宅 伸明 (西春・師勝中)

生き方指導をもとに、主体的に進路選択ができる生徒の育成  
～ゲストティーチャーによる講演会を通して～

## 1 主題設定の理由

本校は、一宮市の中心部に位置し、1学年7クラスの中規模校である。地域の人々は、教育活動にとっても熱心で、中学校卒業後の進路選択に対する意識が高い。そのような環境に支えられ、生徒はまじめに学習にとりくむ姿勢がある。

しかし、全校生徒に「将来の夢やなりたい職業はありますか」というアンケート調査をすると、45.3%の生徒が「ない」と答えている。将来の夢やなりたい職業がないと答えた理由としては、以下の結果となった。

- ・自分に合った職業がわからない。(72.0%)
- ・どんな職業があるか知らない。(23.5%)
- ・以前は将来の夢があったが、現実的に無理だと思ってしまった。(22.4%)
- ・将来について考えたことがない(17.9%)
- ・以前は将来の夢があったが、周りから反対された。(2.2%)

複数回答可

この結果から、世の中にどのような職業があるのかを知らないことが、自分に合った職業がわからないことにつながる要因だと考えられる。また、「以前は将来の夢があったが、現実的に無理だと思ってしまった」と回答した生徒の夢は、医師やパイロットといった高度な知識が必要な職業であったり、野球選手やイラストレーターといった高い運動能力や技能が必要な職業であったりした。そのため、自分の可能性を信じることができなくなってしまったことも要因と考えられる。

また、本校の進学先は、普通科が最も多い。理由として、将来の夢やなりたい職業があっても、「とりあえず普通科」という回答が多く、上級学校卒業後にどのような職業につながっていくかを理解していないことが考えられる。

さまざまな職業を知らないこと、自分の可能性を信じるができなくなったこと、上級学校と職業のつながりを理解していないことに着目し、仮説を立てた。

## 2 仮説

- ①ゲストティーチャーによる講演会を通して、さまざまな職業があり、その一つ一つによって社会を支えていることを知れば、将来の夢をもつことにつながるであろう。
- ②ゲストティーチャーによる講演会を通して、苦労をしながら夢をつかんだ経緯を知ること、あきらめてしまった将来の夢にもう一度挑戦しようとする気持ちが生まれるであろう。
- ③教職員が上級学校についての見識を深め、進路面談を充実させることで、将来の夢に挑戦しようとする生徒の一助になるであろう。

### 3 研究の計画

全学年…ゲストティーチャーによる「生き方講演会」

          ゲストティーチャーによる「中中夢トーク」

1年生…職業人から学ぶ会

2年生…職場体験(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン形式)

          高等学校教員による学科説明会

3年生…2・3年教職員による上級学校訪問

### 4 研究の実践と考察

#### (1) ゲストティーチャーによる生き方講演会(全学年)

令和4年度 中部中学校 生き方講演会  
「無限の可能性を信じて」  
講師：サッカー国際主審 佐藤 隆治 氏  
日時：令和4年6月30日(木) 13:15～  
場所：中部中学校 アリーナ



<佐藤 隆治氏の紹介>  
佐藤 隆治 (さとう りゅうじ)  
愛知県名古屋市出身のサッカー審判員で、2009年から国際審判員として活躍している。プロフェッショナルレフェリー  
愛知県一宮市立千秋中学校、愛知県立一宮高等学校、筑波大学卒業  
<経歴など>  
2004年 日本サッカー協会(JFA)が開設した審判員養成機関「レフェリーカレッジ」の出身  
2004年 同年12月に1級審判員に登録  
2007年 J2リーグの主審として新規登録され、同年8月からはJ1リーグの担当に「昇格」  
2008年 このシーズン以降は主にJ1の試合で主審  
2009年 国際主審に登録  
1月開催の「カタール国際U-20大会」では開幕戦の主審に抜擢  
2009年 この年よりプロフェッショナルレフェリーとして活動  
2010年 日本サッカー協会とイングランドサッカー協会の交流でイングランドに派遣  
2016年 8月リオデジャネイロオリンピックの男子サッカー主審  
2016年 12月Jリーグチャンピオンシップ決勝戦主審  
2019年 10月JリーグYBCルヴァンカップ決勝戦主審  
2020年 1月1日天皇杯(第99回全日本サッカー選手権)決勝主審(新国立競技場こけら落とし)



#### 生き方講演会の事前指導プリント

困難を乗り越え、夢をかなえて社会で活躍している方をゲストティーチャーとしてお招きし、「生き方講演会」と題して、中学生に講演を行っていただいている。

サッカー国際審判員の佐藤隆治氏をお招きし、講演を行っていただいた。タイトルは、「無限の可能性を信じて」である。「将来の夢をもち、がんばっている生徒には自分を磨き続けてほしい」というメッセージをいただき、事前のアンケートで、「以前は将来の夢があったが、現実的に無理だと思ってしまった」という回答をした生徒に「可能性を信じてがんばってほしい」という思いを伝えるような講演になった。

生徒の感想を読むと、「将来の夢にむかってこれからもがんばろう」「がんばれば何にでもな

れる」という前向きなものばかりだった。生徒が前向きになり、たいへん有意義な時間となった。

感想の一例を以下に紹介する。

- ・私は薬剤師という夢がありますが、理科と数学の成績が思うようにのびず、あきらめかけていました。しかし、今回の話を聞いて、可能性を信じ続け、毎日こつこつと勉強をして夢をかなえたいと改めて強く思いました。
- ・私は「なりたい職業はあるけれど、なれる気がしないからあきらめかけている」という状態でしたが、佐藤さんの講演のおかげで、少し希望が見えてきました。
- ・自分には夢があるけれど、全然勉強ができなくて、親に「その夢あきらめた方がいいよ」と言われ、あきらめていました。しかし、佐藤さんの話を聞いて、誰に否定されようとも、しっかり勉強して、その夢をかなえたいです。
- ・私には将来の夢がありますが、本当になれるのだろうか、自分には向いているのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし、佐藤さんのお話を聞いて、可能性を信じて夢にむかって突き進んでいきたいと思えるようになりました。
- ・とりあえず公立高校普通科と置いていたけれど、もっと先のことも考えてみようかなと思いました。どんな仕事があるのか調べてみようと思います。
- ・この高校に行きたいという思いがあったのですが、塾の先生に全否定されてあきらめていました。しかし、講演を聞いて、自分の意思であきらめずに突き進んでいきたいと思いました。
- ・私は、大きな夢をもっていますが、なかなか人に言う自信はありませんでした。しかし、講演を聞いて、今私にできることは、親に夢を話して、少しでも夢に近づけるようにすることだと感じました。
- ・私は大きな目標を立てたことがありませんが、将来の目標を立ててみようと思いました。できる、できないかで悩まずに自分を信じて目標を立て、努力していきたいです。まずは、将来やりたいことを見つけたときに選べる可能性が増えるように受験にむけてがんばりたいと思います。

## (2) 中中夢トーク(全学年)



夢にむかってがんばっている本校卒業生をゲストティーチャーとしてお招きし、「中中夢トーク」と題して、後輩である中学生に講演を行っていただいている。社会の中で活躍している先

輩から「自分ががんばったことや壁を乗り越えたこと」、「自分が現在心がけていること」などの体験談を語ってもらうことで、これから夢や目標にむかってがんばっていくためのきっかけやヒントをもらえる機会となることをねらいとしている。

デザイナーとして活躍している山下ほたるさんと、パリ国立音楽院で学ぶサクソ奏者の袴田美帆さんの講演の感想の一例を以下に紹介する。

- ・「保証がないものに挑戦することが怖かった」とおっしゃっていましたが、私も同じでした。しかし、お話を聞いて、少し勇気を出して「わくわくする未来」に挑戦するのもいいなと思えるようになりました。
- ・講演を聞いて、共感できることが多くありました。例えば、成功が見えていないと不安になり、前に進めないことです。しかし、講演を聞いて、失敗をおそれず、「できること、やりたいこと」を全力でやっっていこうと思いました。
- ・まだ将来の夢がなくて、自分の未来のことを考えると不安でしたが、講演を聞いて、少し不安がなくなりました。何事にも一生懸命とりくみ、努力を継続していけば、自然と自分のやりたいことが見つかるのではないかと思います。

自分たちの先輩が夢にむかってがんばっていることを聞くことは、「生き方講演会」とは異なる感想をもったようだった。先輩であるという身近な存在であり、共感できる点が多かったことがよかったと考える。

### (3) 職業人から学ぶ会(1年生)

1年生では、キャリア教育の一環で「職業人から学ぶ会」を行っている。目的として、

- ①自分の進路を主体的に考え、選択する能力態度を養う。
- ②ゲストティーチャーから職業についての専門的な話を聞く中で、見聞を広め、働く喜びや厳しさを感じ取る。
- ③ゲストティーチャーの人生観にふれ、自ら生き方を考える機会とする。



本年度の講師は、介護士、柔道整復師、シェフ、パティシエ、自動車整備士、銀行員、ホテルマン、建設業、警察官、消防士である。生徒は、聞きたい講座から2つ選んで話を聞いた。

普段接点のない職業の話や、知っている職業でもさまざまな仕事内容があることを学び、働く意義を考える機会となった。

#### (4) 職場体験(2年生)

職場体験は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン形式によるものとなった。1年生の「職業人から学ぶ会」は、地元で働く方にゲストティーチャーをお願いしたが、職場体験は、身近に接する機会が少ない職業の方をゲストティーチャーとしてお招きした。

本年度のゲストティーチャーは、イラストレーター、コーヒー焙煎士、介護学校経営者、動画編集者、ヘルスコーチ、トレーダー、メディアプランナー、自動車保険アテンダント、政治家である。生徒に希望をとり、3人のゲストティーチャーから話を聞いた。

事前のアンケート調査には「どんな職業があるか知らない」が多くあった。そこで、世の中にはいろいろな職業があることを知ることで、自分に合った職業を考えたり、調べたりするよい機会となった。



#### (5) 学科説明会(2年生)

高校には、さまざまな学科があり、その後の進路に大きくかかわってくる。初めての進路選択となる生徒も多いため、学科についてしっかりと理解し、自分の進路を考えさせる機会としている。普通科、農業科、ファッション創造科、工業科、商業科、高等専門学校の教員をお招きし、説明をしていただいた。

「とりあえず普通科」と進路選択してしまう生徒が多い中で、さまざまな学科の魅力を理解し、3年生に進級してからの進路選択に役立てることが期待できる。



#### (6) 2・3年教職員による上級学校訪問

ゲストティーチャーから刺激をもらい、将来の夢やなりたい職業を考えたととしても、実現させるためには、どんな高校が自分に合っているのか考えなければならない。生徒は、体験入学やウェブページなどから情報を収集し、進路選択していく中で、担任による進路面談は大きな影響力をもつ。

近年は、高校も新学習指導要領によって変化していたり、独自のコースを設置していたりするため、教職員も学びを深めなければならない。そこで、2・3年教職員による上級学校訪問を行っている。中学校教職員は普通科出身が多いため、専門学科とはどんな学びをするところ



なのか、公立高校と私立高校の違いはどういったところなのかを学び、生徒の進路選択の一助になれる最新の情報を提供できるように心がけている。

<過去の上級学校訪問>

R2 公立A高等学校（ファッション創造科）

公立B高等学校（機械科・電気科・建築科・土木科）

私立C高等学校（情報会計科・家政科・食物調理科・普通科）

R3 私立C高等学校（情報会計科・家政科・食物調理科・普通科）

公立B高等学校（IT工学科・機械科・電気科・建築デザイン科・都市工学科）

R4 私立D高等学校（サミッティア・グローバル・アカデミア・スポーツ）

私立E高等学校（ラトナディア・グローバルフューチャー・プラウディア）

私立C高等学校（情報会計科・家政科・食物調理科・普通科）

## 5 研究の成果と課題

アンケート調査や講演会の感想を通して、生徒は将来に不安を抱えていたり、自信がもてなかつたりしていることがわかった。また、将来の夢をもっている生徒の中にも、本当になうのかどうか不安を募らせたり、将来の夢をもっていない生徒では、自分の成績などの現状から将来の夢をあきらめたり、周りから否定されたりした経験をもっていることがわかった。そのような生徒を支え、助言していき、最終的に生徒が主体的に進路選択できるようにしていくことが、教職員の役割であると考えます。

しかし、教職員の助言だけでは不十分なところをゲストティーチャーから話をさせていただくことで、生徒は自信をもって将来の夢に挑戦しようと決意し、主体的に進路選択をしていけるようになると期待できる。ゲストティーチャーによる講演は、継続して行っていくことで、より幅広い視点をもって生徒がかかわることが可能となる。そこで、今後もゲストティーチャーによる講演の企画など、生徒が具体的に進路をイメージできるような企画を実現していけると考えます。